

唐獅子図屏風



* 毛利家文庫81 写真17 「永徳常信筆屏風 唐獅子（宮城落成の節献上品）」

「明治二十一年十一月新宮城御落成之節、献上アラセラレタル永徳常信筆御屏風壹雙之内永徳之筆是ナリ

此写真ハ同年四月中、大日本美術協会ニ於テ上野公園ニ美術展覧会ヲ開設セントキ出陳セラレタルニ依リ、同会ニ於テ之ヲ撮影セシメ寄贈シタルモノナリ」

解説

安土桃山時代には、天守や御殿内の柱や欄間には豪華な彫刻がほどこされ、ふすまや屏風には狩野永徳や弟子の狩野山楽らによってはなやかな絵が描かれました。

左の写真は狩野永徳の代表作「唐獅子図屏風」です。縦2m20 cmを超える大画面に雄・雌の唐獅子が力強く描かれており、豪壮な桃山文化を体現する作品です。

現在、宮内庁三の丸尚蔵館に所蔵されているこの屏風は、江戸時代には萩藩毛利家の所蔵で、1888（明治21）年、新皇居が落成した際に毛利元徳から皇室に献上されました。また、この写真は、同年4月に大日本美術協会主催の美術展覧会に出品された時に撮影されたものであると、台紙に記されています。



* 上の写真は、右隻の永徳の描いた図柄に合わせて、後に狩野常信によって描かれたものです。明治21年に一對の屏風として献上されました（毛利家文庫81写真17）。